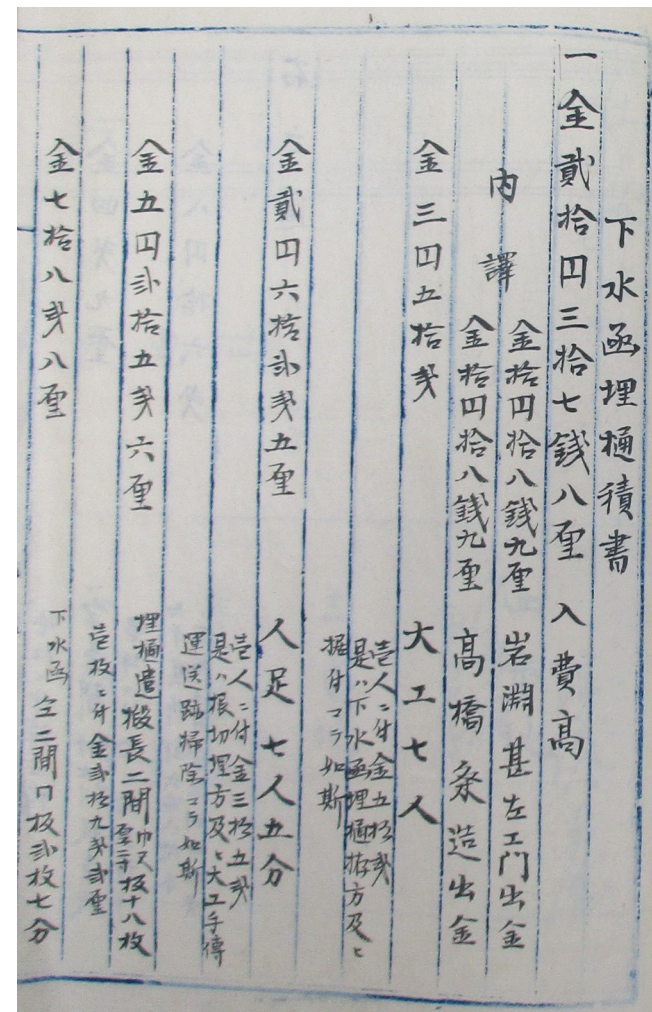


明治初期札幌の 下水の姿

第12回マンホールナイト オンライン発表
発表者:やなぽん(Twitter: @yanapong)



発表者自己紹介など

- 北海道在住
- マンホールナイトでの発表は第7回(2015年)以来、5年ぶり2度目
- 前は鉄蓋の「札幌市型模様」を提唱しました
- 今回はこれ以上蓋の画像は登場しません、悪しからず

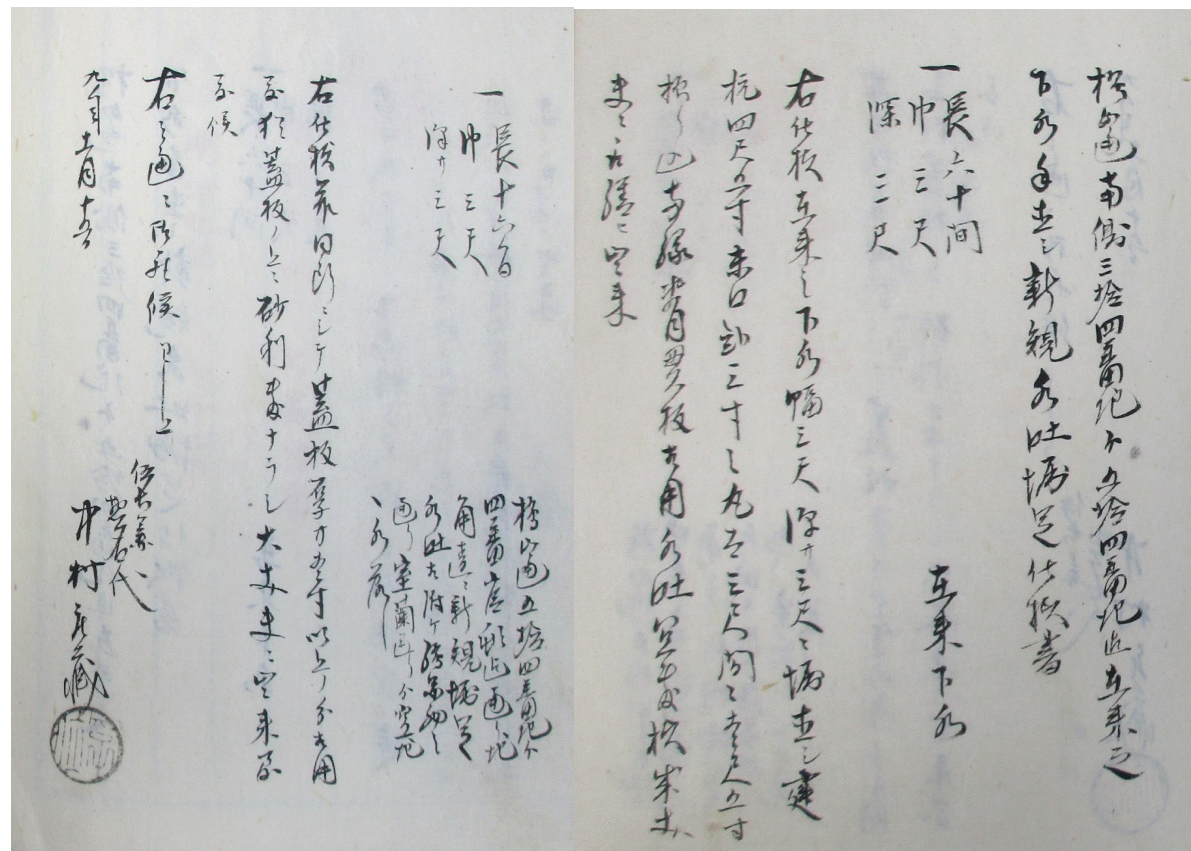


本日のテーマ

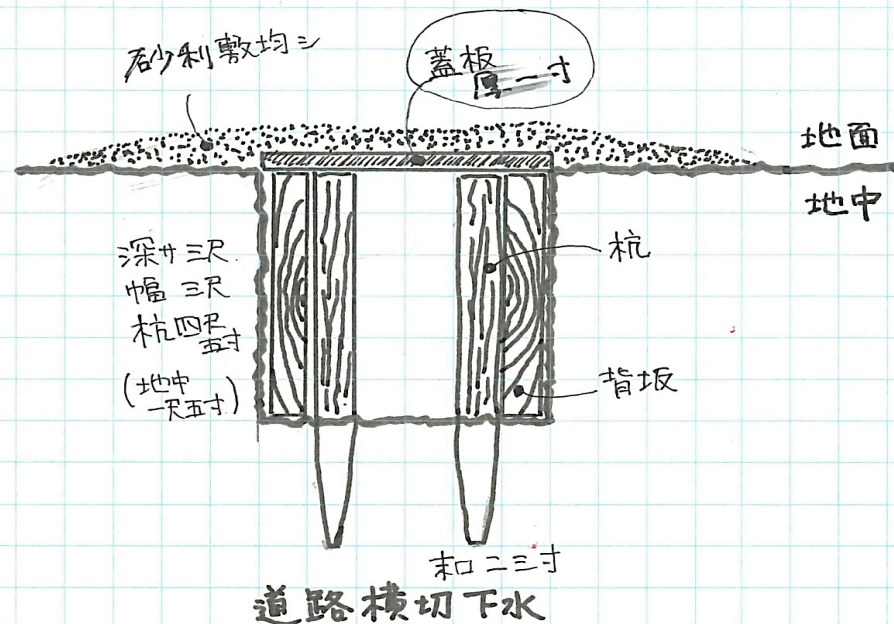
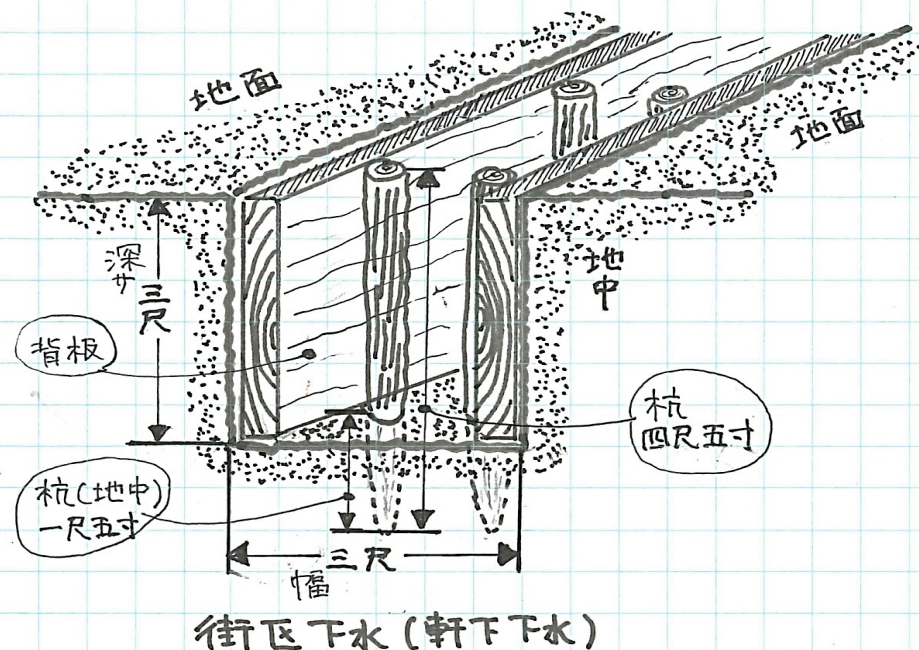
- 明治一桁～10年代(およそ140年前)の札幌の下水がどのような姿なのか、文献資料をもとに見てみる
- 明治3～4年に創られたマチ・札幌の下水は、それ以前(江戸時代)の函館・松前以西の下水の構造をそのまま用いている
- したがって、当時の札幌の下水の姿は、そのまま当時の全国的な下水の姿と重なる(皆さんがお住いのマチも同じ)

明治初期の下水の姿を見てみよう(1)

- 明治9年11月15日
下水工事の仕様書
- 既存下水の修繕(堀り直しと補強)及び
新規下水築造
- 檜(桧)山通りは現
在の南3条西
- 文章ではイメージが
沸かないので図示



明治初期の下水の姿を見てみよう(1)



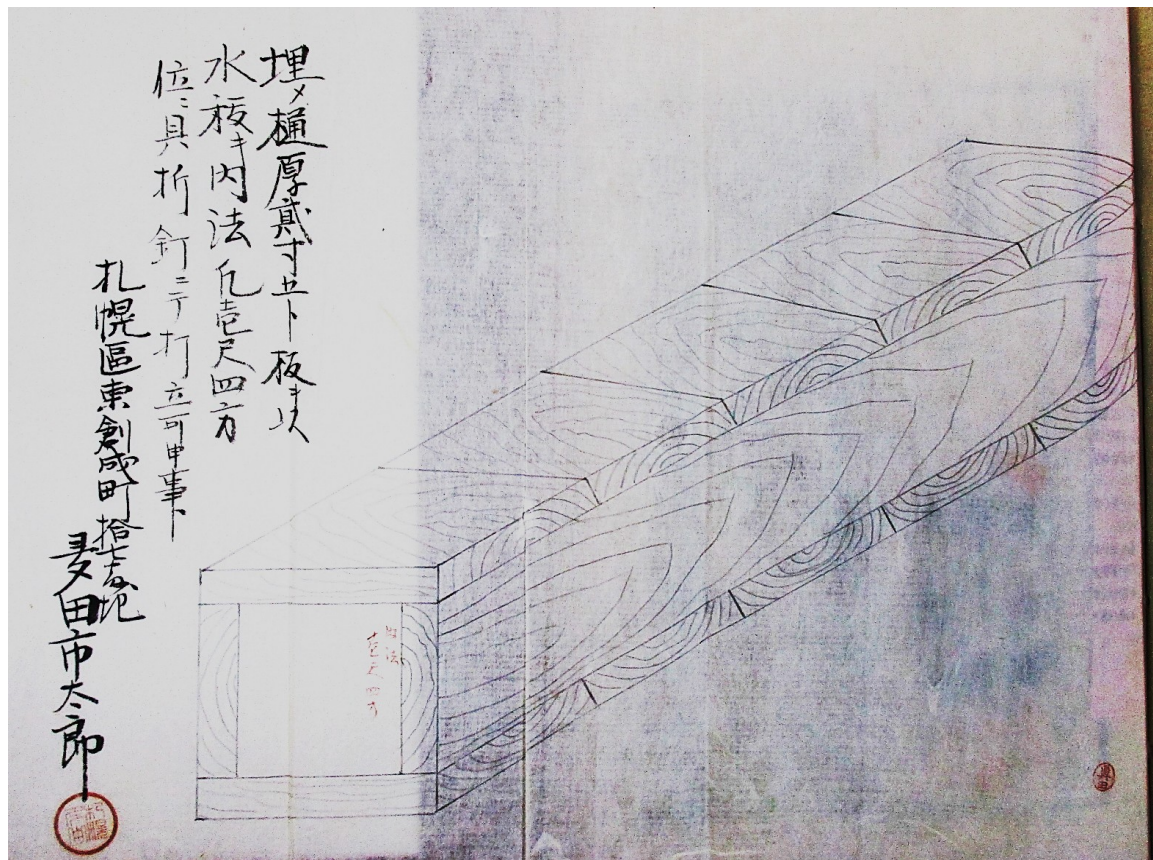
木曾山通三拾四番地から五拾四番地下水及道路横切下水構造図
(南側)

明治初期の下水の姿を見てみよう(2)

皆折釘(貝折釘)



二寸五分=約 75.75[mm] =約 7.6[cm]
一尺 =約 303.03[mm] =約 30.3[cm]

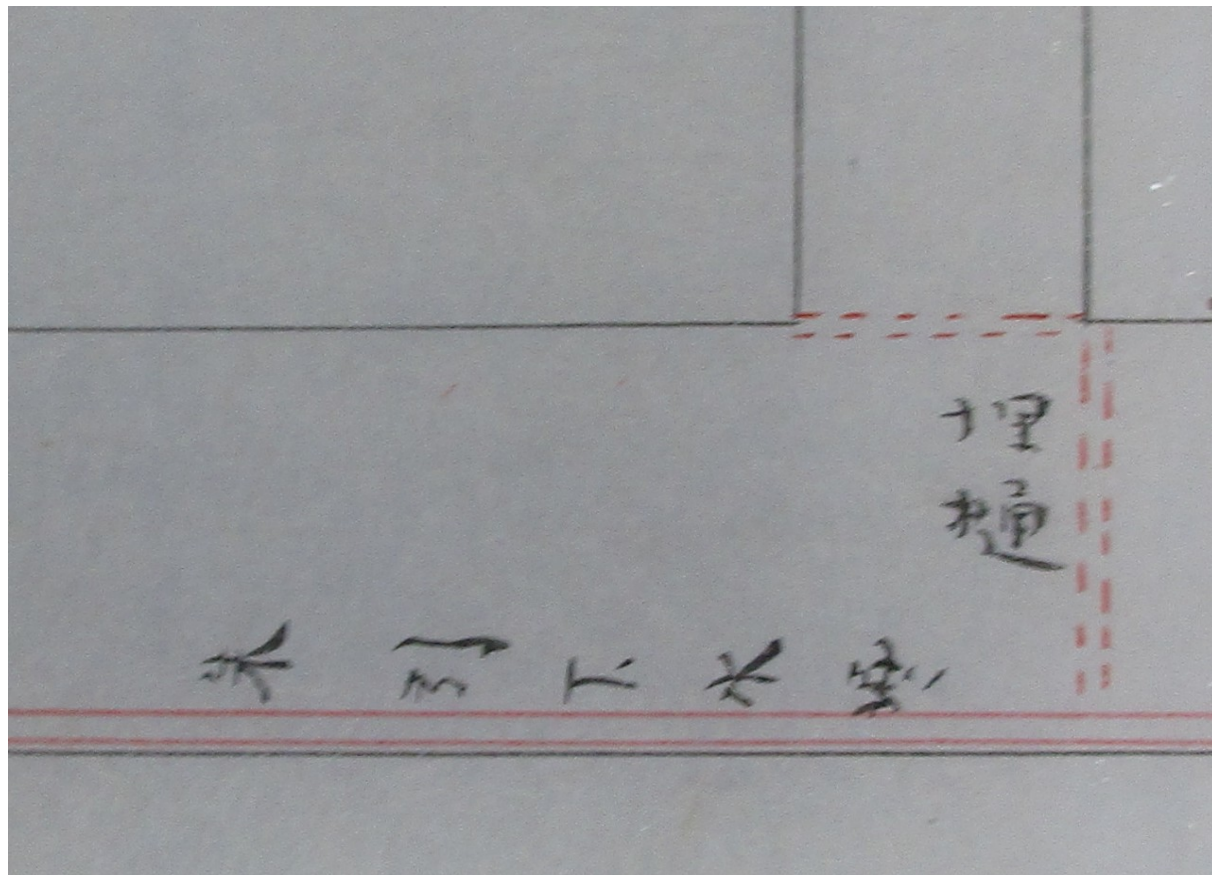


明治初期の下水の姿を見てみよう(2)

- 埋樋(うずめひ)の位置

道路を横切る位置に埋設

※頻繁に壊れるので修繕
が欠かせなかった

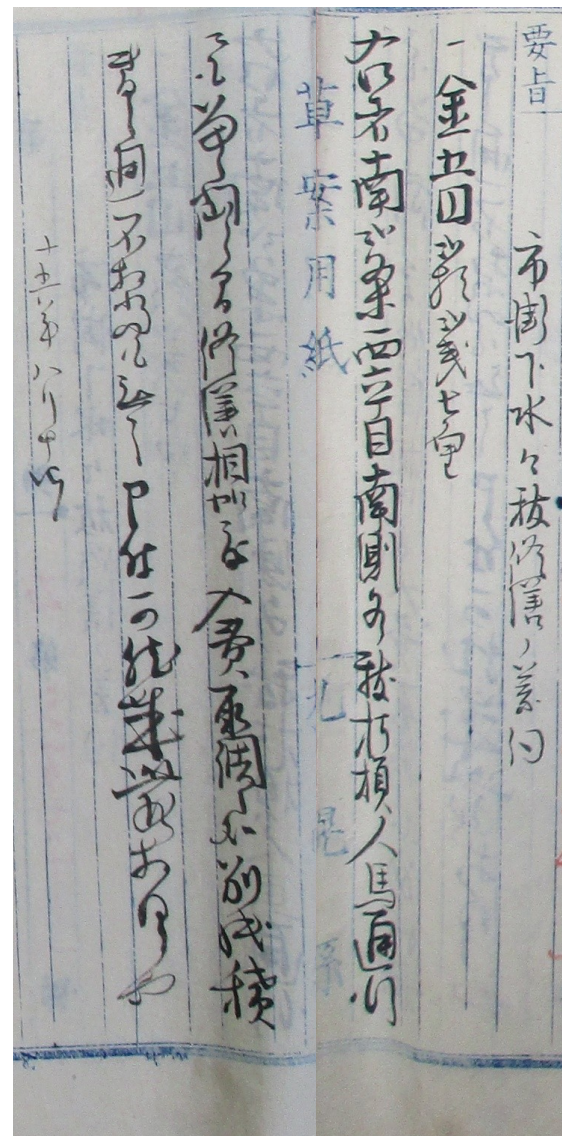


木製下水の修繕事例

- 道路脇の下水が腐って壊れ、人馬の通行に差し支えるため修繕

⇒頻繁に壊れるため、修繕や再設置が繰り返された

北海道立文書館所蔵 簿書／7384
(明治15年)



今日の(強引な)まとめと補足

- 明治初期の下水は地面に溝を掘っただけのもの、溝の両側を板で補強したもの、木などで作った管、が使用された。
(なお流したのは生活排水のみ。トイレは溜めて汲み取り)
- 当然のように、木製の下水は痛んだり腐ったりするため、頻繁な修繕や取り換え再設置が必要だった。
- こうした前近代的な下水でも最初には十分だった
⇒ 人口増加にともない耐え切れなくなっていく
⇒ 人孔(マンホール)及び人孔鉄蓋が登場する



ご清聴いただきありがとうございました。

やなぽん (@yanapong)
2020 (令和 2) 年 11 月 3 日